

////////////////////////////////////

内川・土居川まつりに出展しました！

////////////////////////////////////

### 【河川塾NEWS】

前号の河川塾通信でお知らせしましたとおり、第5回「内川・土居川まつり」に出展しました！

今年の注目は何といってもやはり「手作りボート競走」！！

「いろんな発想のユニークボートが勢ぞろいするのでは？レース前に沈む舟も続出か!？」と思われましたが、意外や皆さんスマートな舟でスイスイとレースをこなしてしまうのでビックリ！

そんな中で私たちの『水の塾号』は！？・・・

プラスチックの衣装ケースにリサイクルのペットボトルをひたすら巻きつけた無骨な（失礼！）舟は、観客の大声援を受けながらあえぎあえぎ内川の水面をゆっくりと進むのでした。。

結果は13艇中の13位！

でも、堂々「ユニーク賞」をいただきました。ありがとうございました。

さて、みなさん！

この『水の塾号』を見てみたい、乗ってみたいという方はいらっしゃいませんか？

決してレースには勝てませんが、ゆっくりと川面からの景色を眺めたり、水の中を覗きながら（衣装ケースが箱メガネになって・・・）ゆったりと川を下るにはもってこいの舟かもしれません。もちろんライフジャケット等、安全対策は必携ですが。

（ちなみにパドルもリサイクルで、『損保の糸』の木蓋を削ったもので出ています）

この手作りボートから“見えてくるもの”がきっとあるはず、です。

（イベント報告は後記）



（「ユニーク賞」受賞の『水の塾号』と作者 足立氏）



（内川にずらりとスマートボートが勢ぞろい）

## 【前回河川塾の内容】

「第33回澤井河川塾」

日時：9月17日(水) 19:00～

場所：センター（いつもの6F会議室）

内容： 1. 「近木川」  
2. 「私の水辺」大発表会 2003

### 近木川への近畿水の塾の関わり方

#### 理事会の報告

大阪府はいずれ「近木川ワークショップ」の開催を考えている。



\* どちらかが主催で行うことを考えており、NPOに委託は考えていない。

- 1、WSが開催されたら
  - 興味を持つメンバーが自主的に参加
- 2、されない
  - 自主的に立ち上げる（社会的責任から）

#### 摂南大学冨田君からの現地調査報告

9月5日に近木川河口から汐留堰までを横断測量並びに堰部において流速を測った。  
詳細はまでメールをください。

### 私の水辺大発表会

#### 昨年と今年の大きな違い

昨年は子どもから大人までのイベントであったが、今年は小中学生に限定されている。

#### 近畿水の塾として何か提案できないか？

昨年、第1回私の水辺大発表会が大阪府主催で開催されたが評価方法が審査員の先生方に伝わりきっていなかったように思われた。そのため、審査結果に???が浮かんだ。

そこで、**仮に水の塾が評価方法を策定するなら??**ということでも話し合った。  
佐藤氏・白木氏・福廣氏から事前に考えていただいた資料を参考に意見を募った。  
(知りたい方がおられましたら、個々に連絡を取ってください)

意見

評価項目を固定するのはマイナスではないか？

パフォーマンスについて評価するのは良いが、他の評価と切り離し「パフォーマンス賞」と独立させたほうが良いのでは？

序列は付けたほうが良いのか？

持続性（将来性）をどう評価したら良いか？

地域性の評価？

結果よりプロセスを評価するのが良いのでは？

発表の上手さ？

様々な世界で活躍されている方達を一律の評価方法でしぼるのはまずいのでは？

時間が足りず話の途中で河川塾は終わったが、9月20日前後までに各々の意見をメールでやり取りすることになった。

これらの意見をまとめ、私の水辺大発表会実行委員会に提案を行う予定である。

[記録担当: 摂南大学 小川&富田]

## 【次回の予告】

次回、「澤井河川塾」のご案内です。

### 第34回「澤井河川塾」

日時：10月15日(水) 19:00～21:00  
・・・毎月、第3水曜日の開催です！！

集合：センター（いつもの6F会議室）

内容： 尼崎市 「庄下川」  
安田さんのマイリバー紹介です。  
全国源流シンポジウム in 高津川大会  
福廣さんからの報告です。

参加申込： 近畿水の塾 事務局 (FAX:0725-53-5325)

E-mail: [mizunojuku@yahoo.co.jp](mailto:mizunojuku@yahoo.co.jp) まで 10/14(火)締切

## 【マイリバー／川びと】

<マイリバー紹介>

### 瀬田川洗堰

西下 陽子

---

琵琶湖に流れ込む川は120本、琵琶湖から流れ出る川はたった1本、この瀬田川だけ。

この流れをコントロールして琵琶湖の水位を調節しようとするのが、「瀬田川洗堰」です。洗堰の主な役割は、

大雨で琵琶湖の水の量が多いときには、たくさんの水を流す。

雨不足で水の量が少なくなると、むだな水を流さない。

上流と下流で洪水が起こらないように、水位調節をする。（琵琶湖河川パンフレットより）

詳細は、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所のHPをチェックしてみてください。洗堰の歴史やゲート操作の仕組み、洪水調節の考え方が絵入りでわかりやすく記されています。

さらにこのHPでは毎日の朝6時現在の琵琶湖平均水位及び洗堰放流量も見ることができます。

このようにとても大切な役割を担っている洗堰ですが、堰という人為的な操作による生物環境などへの影響の是非やその操作内容についてはいろいろなところでさまざまな議論もあるようです。

そういった難しい議論はとりあえず別のどこかに置いておくとして、ここでは皆さんが普段あまり目にされることはないであろう堰操作のごくごく日常の風景をご紹介しますと思います。

上下流との調整の結果、その日の洗堰の放流変更（増量）が決まると、担当職員たちは作業服に、ヘルメットを被り、足元は長靴を履いて、首から無線機をぶら下げて、操作開始30分前に巡視に出発します。堰下流の川の中にいる人たち（釣り、カヌー、散歩など）に放流量を増やすことを知らせ、危険のないように気をつけていただくためです。兩岸の徒歩巡視と少し離れたところまでの警報車巡視に分かれます。無線を使って操作室（琵琶湖河川事務所の3階）と逐一連絡をとりながら、操作をしても安全な状態かどうかを確認していきます。そして、操作開始から終了まで異常がないようにそのまま待機します。全開の場合には操作自体に数時間（急激に水位が上がることはないよう、一定の操作ペースが決まっているため）を要します。全閉の場合には、逆に堰上流の水位が上昇するため、

上流への巡視が必要となります。このように、いろいろな状況に応じて、いずれも操作に伴う事故などが決して起こることのないように、細心の注意が払われています。

当然のことなのですが、夏は暑くてアタマからカラダまで汗だくになります。冬はブカブカの防寒服を着込んでみても風が吹きつけてやっぱりとても寒いです。背丈ほどある草をかきわけ、ゴツゴツした岩を踏み越えて。虫がとてもニガテなわたしには少し緊張(?)してしまふ瞬間でもありました。

わたしにとっては川そのものにとっても近づくことのできるとても良い機会でした。水をじっと見ているとたくさんの小さな魚が群れをなしていたり、とても大きな魚が悠然と泳いでいたり。河川敷の緑に季節を感じたり。街では見られないような鳥がすぐ近くを通り過ぎたり。地元の釣りの常連さんたちに魚のことを教わったり、放流変更による川の状態もわたしなんかよりもずっと詳しいです。

瀬田川沿いには、紫式部ゆかりの石山寺、厄除けで有名な立木観音などもあります。

JR石山駅からバスで20分程度。

秋の行楽のついでに、少しだけ足を延ばして「瀬田川洗堰」も是非ご覧になってみてください。

ここが、日本最大の湖“琵琶湖”の出口です。

琵琶湖の水は、この瀬田川をこうやって出発して、上流の滋賀県を含め、下流の京都府・大阪府・兵庫県の合計約1400万人の生命を支えています。

「瀬田川」は、京都府内に入り、天ヶ瀬ダムを通過すると、「宇治川」と名を変え、さらに下流にて三川合流(木津川及び桂川との合流)を経て、「淀川」として大阪湾へと流れ込んでいきます。

「瀬田川」や「宇治川」は通称で、河川法における正式な名称は「(淀川水系)淀川」となっています。

## 【川の情報ボックス】

イベント情報

< 流域見聞 >

～ 桂川上流域の暮らしと水の関わりに学ぶ ～

「流域見聞」シリーズは、第3回世界水フォーラムを契機に実施された桂川上下流交流事業を引継ぎ、桂川流域の各地域にスポットをあて、そこでの「水との暮らし」を広く市民に紹介することで、共感の輪を創りだしていこうとするものです。

今回は、桂川上流域に位置し、かつての筏流しの起点である灰屋口や伏条台杉の大木で知られる片波川減流域の森林、林野庁の「水源の森百選」に選定されている「武地谷水源の森」を持つ、京北町黒田地区に注目します。

そして地区における生活・林業と水との関わりとその変容について知り、そのかけがえのなさや現状の問題点を共有する場を創りたいと考えています。

日 時：11月9日(日) 10:00～16:00

場 所：黒田基幹集落センター他

主 催：桂川流域ネットワーク事業実行委員会・京都府

内 容：現地見学：黒田地区の水辺と暮らしを訪ねます

基調講演 新川達郎同志社大学教授のお話

ディスカッション 全員で桂川のこれまでとこれからを考えます

参加費：無料(弁当代実費)

定 員：50名程度

申し込み：氏名 住所 電話番号 電子メールアドレス 送迎バス・弁当申し込みの有無を、下記までファックス又は電子メールでお知らせください(10月末〆切)

問合せ先：京都造形芸術大学 環境デザイン学科下村ゼミ

電話 075-791-9289 FAX075-791-8374 Eメール [yasushi@yo.rim.or.jp](mailto:yasushi@yo.rim.or.jp)

事前に申し込まれた方にはお弁当を用意いたします。

送迎バスを用意致しますのでご利用ください(京都駅八条口 8:00 出発予定)

[「流域見聞」チラシより転載]

## イベント報告

### 「5回 内川・土居川まつり」

日 程 平成15年10月5日(日) 午前9時30分～午後4時

場 所 堺市 ザビエル公園・内川河川敷

主 催 内川・土居川まつり実行委員会、堺市

後 援 大阪府、大和川工事事務所

前回の河川塾通信でお知らせしました通り、内川・土居川まつりに参加してきました。感想はただただ一言、面白かった！しかも想像以上に。

近畿水の塾の参加の内容は、ステージ近くのテントに「みんなの焼きそば屋さん」と、出前講座「昔懐かしい自然遊び」、パネル展示を、そして「手作りボート競争」に参加。秋晴れのお祭りということで、300食完売を目標に焼きそば屋はスタートし、私達の期待

通り商売大繁盛・・・というそんな甘いわけ無く、というより、そもそも模擬店経験者無し状態で鉄板を前に焼きそばを作る図は悪戦苦闘の言葉がぴったり。どうしたものかと思案顔の私達の前に、見知らぬおじさん（所謂、大阪で言うところの「おっちゃん」）がエプロン姿で現れ、「焼きそばはこう作るんや」と指導をし始めてくれ、美味しそうな焼きそばがあっという間に出来上がり。いつの間にかお客さんが一人二人と屋台の前で足を止めている状態。それもお客がお客を呼び5, 6人待ち。10分前では考えられない屋台のこの賑わいにてんやわんやで対応しながら、必死でおっちゃんのコテさばきを真似しどんどん焼き上げていく繁盛振り。うそみたい。おっちゃんのお陰で、リピーターのお客さんが現れるほど美味しい焼きそばを皆さんに食べて頂く事が出来ました。お客さん曰く、おっちゃんは駅前でお好み焼き屋をしているとの事。よっぽど私達の屋台の閑散ぶりを気の毒に思って現れてくれたのか、兎に角おっちゃんに感謝感謝。と、その一方で、足立さんの「手作りボート競走」参加が同時に行われていたのですが、手作り！が一目でわかるペットボトルを組み立ててのボートに、川沿いの応援者から「ガンバレー！」の声は他のボートよりも一番多くかかっていた。前日まで作製に取り掛かっていた、試乗が出来なかったと聞いていたので、完走出来るのか・・・とかなり心配していましたが、見事に完漕した姿は感動ものでした。写真で伝えたいです、感じてください。

残念ながら予選突破はなりませんでしたが、なんと「ユニーク賞」受賞です、嬉しいです。また、心配していたスタッフ不足も、貝塚のわくわくクラブの方達が応援に来てくださって、なんとか無事に催しを行えました。当初の甘い予定では、焼きそば300食完売・出前講座繁盛・ボート競走優勝という現実とは程遠い目標でしたが、終わってみれば想像していた以上の結果・成果・満足感が得られて、大変疲れた中にもフツフツと次回に期待するものも大きくありました。しかし肝心の近畿水の塾のPRが十分に出来なかったと反省もあつつつ、やはりもう次回の屋台の事を考えてワクワクしています。「みんなの焼きそば屋さん」の名前通りみんなで参加出来ました。みんなに感謝です！

[侑]



(近畿水の塾「みんなの焼きそば屋さん」は  
みんなの応援に支えられて・・・)



(展示コーナーで近畿水の塾の活動紹介)

## 【事務局より】

もうひとつ「内川・土居川まつり」出展（出店？）の話題を…

『焼きそば屋さん』をすることになって、ある会員さんから「ゴミがたくさん出そうなので『環境系 NPO』として、使用する容器や包装材について何らかのポリシーや工夫が必要では」とのご意見をいただきました。

当初はデポジットやリターナブル・リサイクルが理想として考えられましたが、回収の手間や洗浄の環境負荷のことを思うと二の足を踏んでしまい、結局「ゴミとして処分しやすいであろう」木製の舟（たこ焼きの舟）とみどりの包装紙を使用しました。

これは昭和 40 年代の風俗でもあり、『焼きそば』とのマッチングにも満足していたのですが…

イベント後、「木製の舟も割り箸も外材だろう」との指摘があり、この選択は間違いであったと気づかされました。使うなら間伐材を使用した、出来れば地域産の材料であればよりベターであったのです。

このようなことは日常生活でもよくあることですが、「私たちが一番の価値をどこに置いて消費材を選択するか」という基本的な考え方を身に付けておく、そんな必要性を強く感じました。

早く『商品の出自』を気にしなくても当然の世の中になればいいのになぁ！！